

説教余滴 『オレアンダー』

8月下旬の一日、伝道委員さんと一緒に浜松へ行きました。新横浜までは、木下姉の運転する乗用車。道中、路傍にピンクの花・夾竹桃を観ました。このごろの田浦、神明社とその界限、第二術科学学校体育館の西側にも咲いています。黄色や白の花、八重咲きの種もあります。暑い夏に咲くのは、いかにもインド原産らしく感じます。あります。江戸時代中期に、中国を経て伝来したようです。葉は長楕円形で、両端がとがった形。

キョウチクトウは優れた園芸植物ですが、強い経口毒性があり、野外活動の際に調理に用いたり、家畜が食べたりしないよう注意が必要です。花、葉、枝、根、果実すべての部分と、周辺の土壌にも毒性があり、生木を燃やした煙も有毒です。毒成分は、腐葉土にしても1年間は毒性が残るため、注意が必要です。

薬用キョウチクトウの全部位には、オレアンドリンなど様々な強心配糖体が含まれており、強心作用、利尿作用もあります。しかし、同種は非常に毒性が強いため、素人処方は無用。

1980年に、千葉県の農場で牛に与える飼料の中にキョウチクトウの葉が混入する事故があり、この飼料を食べた乳牛20頭が中毒をおこし、そのうちの9頭が死亡しました。混入した量は、牛1頭あたり、乾いたキョウチクトウの葉約0.5g程度だったといいます。致死量は乾燥葉で50mg/kg（牛、経口）という報告があるそうです。

乾燥や大気汚染に強いため、川崎市では緑化樹として、街路樹などに利用されています。広島市はかつて原爆で75年間草木も生えないといわれたが、被爆焼土にいち早く咲いた花として原爆からの復興のシンボルとなり広島市の花に指定されています。

防火機能を有する防火樹としても知られます。同じ木が、致死性の毒ともなり薬となります。おなじ口から、讚美と呪いが出てきます。